シリーズ
企業訪問

株式会社 マルサン

～高品質なプレカットづくりで 明日の住宅産業を創造する企業～

企業概要

代表者：代表取締役社長　前田　英俊（まえだ　ひでとし）
所在地：二本松市小浜字鳥居町27－3（本社）　ＴＥＬ：0243－55－2255（本社）
二本松市成田字柏崎214　（工場）　0243－55－2626（工場）
資本金：3,500万円　ＦＡＸ：0243－55－2589（本社）
創　業：1935年　0243－55－2585（工場）
従業員：80名　ＵＲＬ：http://www.marusan-lumber.co.jp/
事業概要：プレカット加工　など　E-mail：tpw@marusan-lumber.co.jp/

前田社長

昔は住宅建築現場で大工さんが鋸（のこぎり）で木を切ったり、かんな掛けをしたりする光景を目にしました。「いつの頃からかは思い出せないが、そういえば住宅建築現場でそんな光景を見なくなったな」と感じる方も多いのではないでしょうか。今は工場で木材を加工し、現場で組み立てる「プレカット」が主流となっているからです。

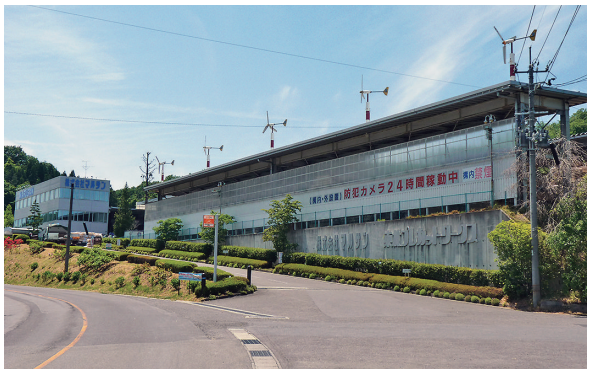
㈱マルサンは東北でも逸早く全自動プレカットラインを構築した、プレカット加工の先駆け的な企業です。高品質な製品は木造住宅用の資材として私たちの日常生活を支えています。

今回は二本松市の工場を訪問、前田英俊社長に会社の歩み、プレカットによる住宅づくり、今後の展望などについてお聞きしました。

○創業の経緯について教えてください ～桐下駄の製造からスタート～

当社は現会長三浦勝真（かつま）の父三浦緑（みどり）が昭和10年に桐材での下駄製造からスタートし、今年で創業80年を迎えました。

昭和24年に現在の本社所在地に製材工場を造り、近隣の木材を買い取って住宅用木材の製材を始め、


工場・社屋外観

工場内作業風景

社名を丸三木工所と名付けました。その後、昭和50年の丸三木材株式会社への社名変更を経て、平成24年に現社名の株式会社マルサンとなりました。

現社名としましたのは、断熱材施工など木材以外の事業も行うようになったため、木材を供給するだけではなく、住宅に関する総合的な会社になろうという決意のもとに、社名から木材を外してカタカナ表記としました。

私自身については、平成５年に入社し、現場を一通り経験したのち、平成22年に社長に就任しております。

○会社が発展した転換点について教えてください
～東北プレカットワークスを設立～

平成元年に全自動プレカットライン工場を建設しました。「東北プレカットワークス」と名付けた本工場は、プレカットライン工場としては東北でも早い操業で、敷地面積15,000㎡の工場に軸組木材プレカットや壁材パネル作製など様々な製造ラインがあります。

プレカットは、バブル期に職人が不足した住宅メーカーが取り入れ始めました。当社においては、取引先の住宅メーカーが「どこか東北の製材会社でプレカットをやってみるところはないか」と探していた時に手を挙げたのがきっかけです。他に何社か立候補した中で、福島と郡山の中間に位置する立地の良さもあり、当社が選ばれました。

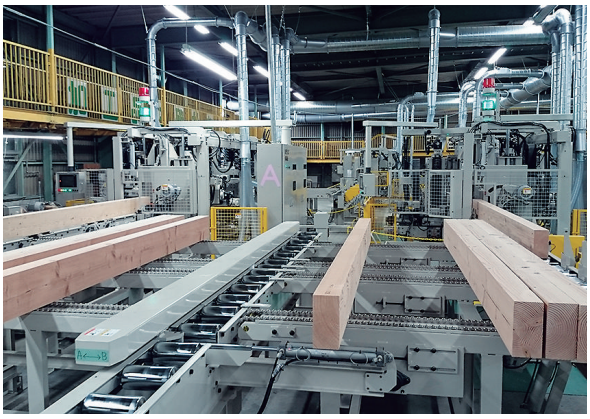
当社がプレカット事業に参入した頃は、まだプレカットが普及していませんでした。今では住宅建築現場の８～９割ぐらいがプレカットを使用していると言われています。

○プレカットのメリットについて教えてください
～高精度な家づくりを工期短縮のうえ環境にも優しく行える～

木造住宅の骨組みとなる土台や柱、梁などの部材は、大工職人が鋸やノミを使って作業場で加工してから建築現場で建てる方法で施工されてきました。プレカットは、これら部材を工場で予め切断し、高精度に加工する技術のことです。建築現場では、工場が作成した図面を見ながら組み立てることとなります。

プレカット加工することで３つのメリットがあります。まず１つ目が高精度な家づくりができることです。CAD※入力で設計しコンピュータ制御で機械加工を行うので、品質にバラツキがなく正確な木材加工製品が出来上がるため、高品質な家づくりが可能となります。２つ目が工期短縮です。プレカットにより工程が短縮され、コストダウンにもつながります。おおよそ、大工さんが20日間くらいかけて行う加工作業を半日で終わらせることができます。３つ目が環境に優しいことです。現場での切断・加工作業が減るため、騒音や廃材等を減少できます。

※CAD（コンピュータ支援設計）…パソコンの画面上で図面を作成するソフトウェア



機械化されたプレカットライン

原料の木材保管庫

○事業内容について教えてください
～在来工法プレカットのみならず幅広く住宅木材加工を取り扱う～

当社は、木材住宅の中でも日本古来の建築手法である在来工法に使用する土台や柱、梁など構造材をCAD・CAM※を用いてプレカット加工するのがメインの業務となっています。

当社では、一般的に利用されている「在来工法プレカット」のみならず、「金物工法プレカット」「合板プレカット」「羽柄プレカット」なども行っております。この４つは取り扱っている同業者もありますが、当社では、更に「パネルプレカット」「ツーバイフォーパネルプレカット」などパネルや２×４（ツーバイフォー）まで住宅木材加工に関して幅広く取り扱っております。

※CAM(コンピュータ支援製造)…パソコン上で工作機械の加工プログラムを作成するソフトウェア

○阪神大震災以降、建築工法の変化はあるのですか
～２×４工法、在来工法含めた木材住宅が見直されてきている～

阪神大震災以降、材料を金物で固定し強度を高めていこうという意識は高まってきています。当社は、県内では早い時期の平成13年に金物プレカット加工を始めました。

在来工法に対し、２×４（ツーバイフォー）工法という北米生まれの工法で建築される住宅が日本の住宅メーカーでも増えてきました。在来工法が柱や梁といった軸組で支える「木造軸組工法」なのに対し、２×４はフレーム状に組まれた木材に構造用合板を打ち付けた壁や床（画材）で支える箱型構造であり、「木造枠組壁工法」とも呼ばれています。

当社では平成24年から２×４パネル組立事業を開始しました。在来工法と２×４にそれぞれ長所・短所が色々ありますが、お客様の選択肢として幅広く対応できるよう、取り扱っております。

阪神大震災の時には２×４住宅の倒壊が無かったこともあり、伝統的な在来工法が地震に弱いイメージが広がりました。しかし、在来工法が地震に弱いのではありません。阪神大震災を契機に見直された建築基準法に基づく在来工法の住宅は、大地震にも十分耐えうる耐震性能を有しています。

東日本大震災を経て２×４や在来工法というくくりではなく、木造住宅自体が再評価されてきていると思います。

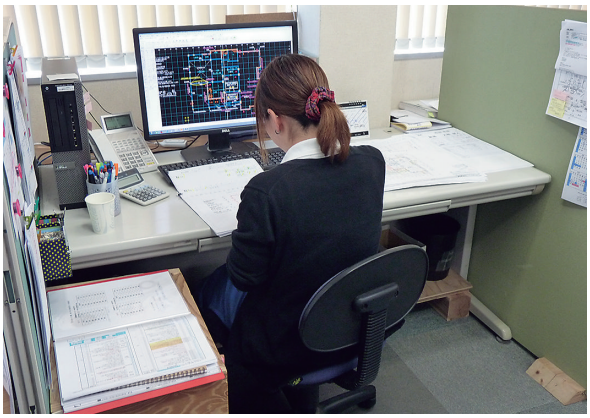
○御社のセールスポイントについて教えてください
～日々培ってきた「対応力」が会社の財産～

当社は早い時期からCADやCAMを使用したプレカット加工を行ってきました。新しく取組を始めた時点では他社に先駆けた当社の特色ともいえましたが、他社が導入すれば追いつかれることになります。

しかし、当社では他社に先んじて新しいことに取組んできた長い経験があり、いざという時の対応力は優っていると思います。CAD・CAMはパ

金物で強化した「金物工法プレカット」

パネル加工の現場



センス抜群のオペレーターが CAD 入力

多種な加工ができる高性能機械

ソコンを使用しますが、操作するのは人です。当社の CAD オペレーターがお客様の求める製品をプログラムするセンスは抜群です。また、木材加工の現場においても機械を使用していますが、操作するのは人です。当社の社員は正確に操作する微妙なタイミングなどの感覚に優れています。

プレカット製品は品質が良いことが当たり前ですが、より高品質な製品である前提として、当社が日々努力を重ね培ってきた「対応力」が会社の財産となっており、取引先の方々に認めて頂いている部分であると考えています。

○出荷先や木材の産地はどこですか
～県内のみならず隣接県にも出荷～

出荷先は県内が約６割です。県内外の住宅メーカーや工務店が顧客であり、県外では隣接する山形、宮城、新潟、栃木、茨城各県に向け出荷しています。

扱っている木材の約７割が外材です。国産材を多く使用したいところではありますが、コストの問題や国産の大径木が少なくなったという事情などから、外材が主流となっています。しかし、国産材を普及させたい願いもあり、環境への取り組みとして「ゼロエミッション活動」を行っています。

○ゼロエミッション活動とは何でしょうか
～県主催のゼロエミッション活動コンクールで優秀事業所賞を受賞～

ゼロエミッションとは、「ある産業から出る全ての廃棄物を他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを目指すことで新しい資源循環型社会の形成を目指す考え方」として国連大学が提唱しました。福島県が主催するゼロエミッション活動コンクールにおいて、当社は「優秀事業所」として表彰されました。

プレカット加工の過程では、おがくずや端材が出ます。端材は門柱など当社オリジナル製品に、残りは家庭用暖房など燃料用に再利用しています。また、おがくずは、畜産農家に引き取っていただき、それが堆肥となり緑化活動に使用されます。成長した樹木はいつか原木として伐採され、プレカット資材となるサイクルが生まれます。

○経営理念について教えてください
～創業以来、「お客様第一」と「高品質な製品」にこだわってきた～

当社の経営理念は、「私達は、お客様に信頼される誠実な仕事をします」「私達は、商品の品質を高め理想の社会創りに貢献します」「私達は、全ての協力者と相互の繁栄を願い、自信と情熱を持って行動します」の３つです。

１つ目と２つ目はお客様や社会に対しての行動指針です。「お客様に信頼される誠実な仕事」とは「商品の品質を高める」ことです。「商品の品質を高める」ためには「お客様に信頼される誠実な仕事」をすることで実現します。つまり、この２つは対を成しているものです。

３つ目は外部ではなく内部の社員に向けての指

針です。社員、社員の家族、取引先の方々の下支えがあって会社は成り立つものであり、３つ目の心構えが無ければお客様に対して良いサービスを提供することはできないと思っております。

○東日本大震災時について教えてください
～直接被害は無かったものの、風評被害の影響を受ける～

工場や従業員の直接的な被害は幸いなことにありませんでした。しかし、震災当日に納品予定の材料が入荷せず、仕入先の宮城県の合板工場が被災し資材が入らなくなったため、在庫がほとんど無く、震災翌日から臨時休業を決めました。私１人が留守番をしようと翌日出社しましたら、社員達がすでに出社しており、設備の手入れや稼働再開のための準備をしていました。この時は社員達をとても誇りに思いました。

１週間で操業再開しましたが、原発事故後の風評被害影響は大きく、県外からの返品やキャンセルが相次ぎました。現場に納入してからも、建主が福島県で製材されたと知って返品されたこともありました。使用している材木はほとんどが県外や国外産ですが、福島県の会社というだけで敬遠され、震災後１年くらいは影響を受けました。

○今後の展望について教えてください
～木の良さを知ってもらう活動で地域貢献を図る～

少子高齢化によって、住宅着工件数は減少していくことから逃れられません。そのため、在来工法だけではなく新規事業として、３年前に２×４事業を始めました。今後、２×４事業の更なる増産を図っていきます。

国の施策として住宅以外に木材を利用しようという動きが出てきています。学校や高齢者向け施設などの公共建物が想定されています。当社としても木材利用促進に少しでも貢献できればと思っております。

少子高齢化が進んでいきますと、建築現場の職人さんが高齢化していき、人手不足になっていきます。当社の使命としては、建築現場離れが進んだ若者に戻ってもらえるような取組や、木の良さを知ってもらう活動を行い、地域貢献できればと考えております。木の良さを知ってもらう一環として、具体的にはまだ公表できませんが、当社では新しい事業を計画しております。「木の住宅はいいな」と１人でも多くの方に思ってもらえるように取り組んでいきます。

住宅用木材について丁寧に説明する前田社長

【インタビューを終えて】

社長にはプレカットとは何かについて一から詳しく教えていただきました。社長は体力づくりとしてフルマラソン等のロードレース大会に出場しており、コツコツと日々努力する「長距離ランナータイプ」の誠実な人柄がうかがわれました。

工場を見学しましたが、広い工場内に様々なラインがあり、整然と作業が流れていく工程は壮観でした。また、製品にはどこの現場の、どの箇所で使うかを識別する記号が印字されており、いわばプラモデルの超巨大版を連想しました。当社工場のプレカット加工は、住宅に換算すると月産150棟分を生産するとのことです。

家は私たちにとって生涯で最も高価な買い物です。品質に優れた当社のプレカット材やパネル等が、今日もどこかで活用されていることを思うと、今後も当社の製品が「最高の住宅創り」を通して社会に貢献していくことが期待される取材となりました。　（担当：高橋）